

平成27年7月21日

## 研修報告書

松戸市議会議員  
大塚 健児

研修：「拡充」から「縮充」へ 機能ベースの施設再編成

主催：東洋大学客員教授

日時：平成27年7月21日（火） 14時～16時半

場所：アットビジネスセンター東京駅八重洲通り

次第：1. 「拡充」から「縮充」へ 機能ベースの施設再編成

### 【研修報告】



#### ● 「行政財産」の縦割り構造について

地方自治体は首長が権限をもっている。

国会の意志は、行政は内閣、閣議18人位、各省庁、内閣ではなく担当部局に過ぎない。

ただし、法律で設置されている国家組織。

各省庁はつねに新しいポストをつくり、予算は膨れていく。

内閣はコントロールできない。人事は官邸が握っている。

地方は首長が人事とお金を握っている。

縦割りごとに公共施設の面積を削減するとうまくいかない。

#### 例) 神奈川県横須賀市

施設白書を自前でつくる。自前の特徴はおざなりになってしまうこと。

今どのくらいの資産をもっていて・・・。資産価値がわからない。

あまり細かすぎてもラフでも失敗。

1回目の委員会 課長10数名削減すべき施設を全部まとめるという内容

2回目 すべて現状維持という回答

これは課長の心理的な行動原理である。

つまり課長のプロジェクトだから成功しなかった。

30%削減の目標を明確にしていく。

まとめると以下のような行政の縦割り構造となっている。

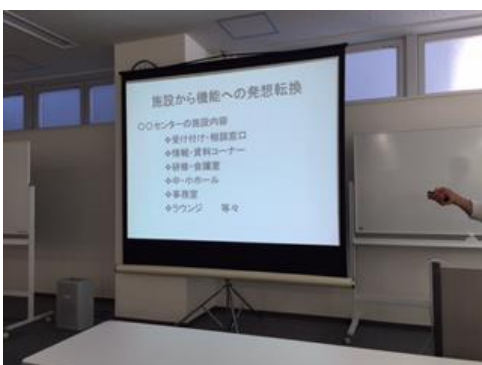
★行政財産 → 行政目的 → 部局の管理 → 縦割り

行政目的・・・条例で使用料金規定→固定化

目的外使用→変化への対応ができない



### ●施設から機能への発想転換



例) 小学校の施設利用

小学校の校門が開いているのは朝の約30分のみ。

遅れた子はインターホンで入る。がっちりしたセキュリティーをしている。

しかし・・・・。街の人が何人か学校施設の中にいたらどうか？

完全に閉めてしまうのは勿体ないのでは？

例) 体育館

東日本大震災での避難所。やっとの笑顔は自衛隊のお風呂の時間。

夏の暑いときに、体育館のトイレが和式ではエコノミークラス症候群になる。

体育館を避難所として、シャワー設備、更衣室、ラウンジ、いす席等をつくるべき。

大体3,000万円くらいでできる。

例) 愛知県半田市成岩中学校

中学校の施設に市民体育館をつくる。

学校の行事最優先。それ以外の平日5時以降は各クラブ活動がひきうける。

地域のクラブチームが引き受ける。

部活動はやらない。一般の先生におわせることは大変。

例) 佐賀県武雄市

従来の役所のスタイルではない。

TSUTAYAとスタバのカフェを入れる。

名前も知らない都市があれだけ有名になると、経済効果につながる。

視察は午前9時からしか受け付けない。

すると、前泊をする必要があり、武雄温泉に宿泊してもらう。

図書館としては大したものではないが、従来の図書館の概念を打ち破った。

本は委託販売で本屋に損はない。

スタバは全店舗の中で4位の売り上げとなる。

検索機は20機位ある。



例) 東京都武蔵野市 武蔵野プレイス

生涯学習と青少年活動の融合

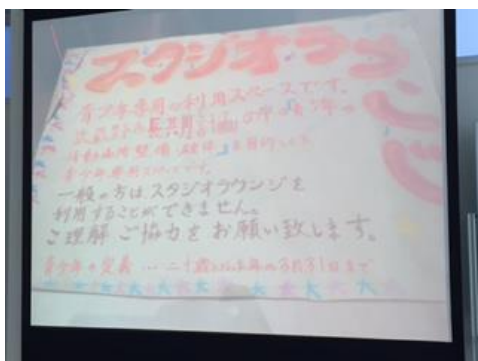
入館料や資料のお金もとってはいけない。

有料サービスは可能。

飲食は自由、ビール、ワインが出てくる。

中学生・高校生が自由に使っている。

音楽練習場もある。



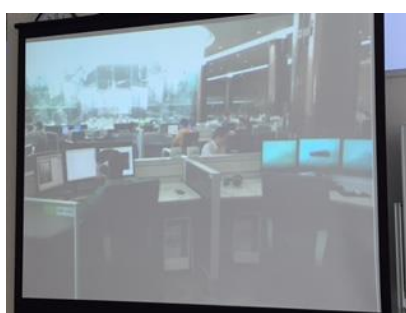
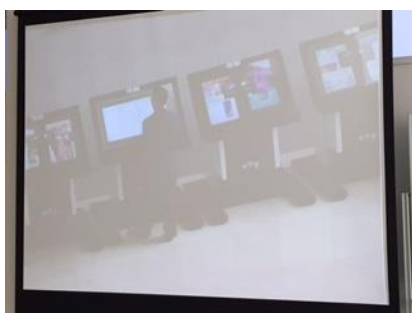
例) 韓国の国立図書館

本は一冊もない。

新聞はパネルになっている。

図書館に人が来ないからお金がかかる。とにかく足を運んでもらう。

閲覧室には人はいない。一方でパソコン室はたくさんいる。



例) 千葉県柏市

40万人で図書館登録者は約21万人

その中で、1年間の利用者は大体67,000人いる。

その中でも1割の6,700人が9割本を借りている。

ヘビーユーザー395人 全体の0.1%

リタイヤした男性陣と30代女性で子づれがほとんど。

(柏市に助言をしてきた)

3万冊から1万冊に減らし、ソファを置いて母子交流会などを行う。

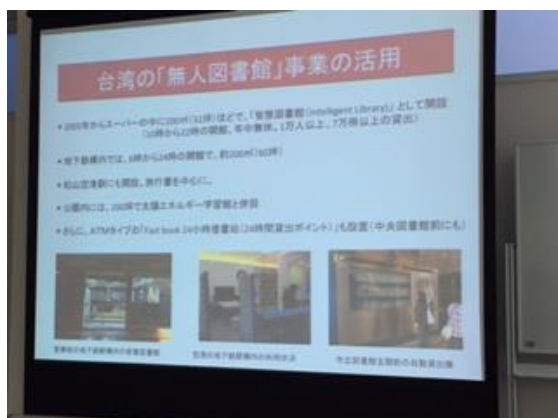
つまり、もっともっと人の交流を結びつける空間にするべき。

図書館は市民が主である。日本はもっと来てもらう工夫をするべき。

例) 台湾の図書館 無人図書館

貸出には人がいない。週に2回元に戻す作業はある。

本の自動貸出機



### ●公共施設に関する市民意識

★利用頻度 月に数回以上利用する施設の上位は「図書館」16.6%

「コミュニティーセンター・公民館」13.1%

「体育施設」9.5%

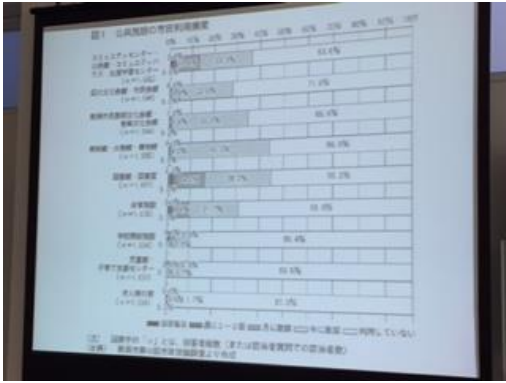
★交通手段

車・バイクの割合は「図書館」71.8%

「コミュニティーセンター・公民館」57.9%

「体育施設」91.6%

車で移動の割合は高く、利用頻度が高い施設であっても、必ずしも居住地の近くの施設を利用しているとは限らないのでは？



※公共施設の市民利用頻度

★人口構成や財政負担について

さらに少子高齢化、人口減少が進む可能性がある 76.6%

施設老朽化に対する巨額の財政負担が必要 46.3%

★今後の施設の改修、建替えについて

施設の維持重視 44.1%

施設の削減検討 22.6%

★今後の施設の維持・管理方法について

廃止売却や貸付 58.8%

長寿命化 57.4%

複合化・多様能化 27.6% 複数回答

●減免制度は補助金制度に

例) 老人福祉センター

対象は60歳以上

利用料は無料

午前9時～午後4時半

休館日は毎週月曜日、休日、年末年始 年間300日の稼働

以上から利用者1人当たり213,600円かかることになる。

つまり、減免制度は既得権と無責任を生み出す。

コスト感覚がなければ緊張感なし。

いったんは使用料を支払い、後に補助金を申請

事務コストは高くなるが、効率的運営に。

行政財産から市民財産への転換が必要

(まとめ)

行政の縦割り構造の弊害について勉強した。まずは、行政組織がどうなっているのが、しっかりとわかった。横須賀市のような失敗にならないようにまずは明確は数値目標を掲げることが必要である。

また、市民意識調査から、市民ニーズがくみ取れる。

やはり、財源の確保の視点から「縮充」に移行していくべきであり、また創意工夫をした図書館や公民館、学校等の公共施設利用方法も考えていく必要がある。

今回の研修は漠然とした大まかな内容であった。

松戸市の公共施設再編の大まかなイメージ図が描けた。あとは、翌日ある指定管理者制度をしっかりと学んで、財源確保を追求していきたい。